

**ルピアール坐剤 25**  
**ルピアール坐剤 50**  
**ルピアール坐剤 100**

**【この薬は？】**

販売名	ルピアール坐剤 25 LUPIAL Suppositories 25	ルピアール坐剤 50 LUPIAL Suppositories 50	ルピアール坐剤 100 LUPIAL Suppositories 100
一般名	フェノバルビタールナトリウム Phenobarbital sodium		
含有量 (1個中)	フェノバルビタール ナトリウム 25mg	フェノバルビタール ナトリウム 50mg	フェノバルビタール ナトリウム 100mg

**患者向医薬品ガイドについて**

**患者向医薬品ガイド**は、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」  
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

## 【この薬の効果は？】

- ・この薬は、催眠・鎮静・抗けいれん剤で、バルビツール酸誘導体と呼ばれるグループに属する坐薬（ざやく）です。
- ・この薬は、脳が興奮している状態をしずめ、寝つきをよくし、不安や緊張をやわらげ、けいれん発作を抑える働きがあります。
- ・次の目的で処方されます。

**小児に対して経口投与が困難な場合の次の目的に用いる。**

**催眠**

**不安・緊張状態の鎮静**

**熱性けいれんおよびてんかんのけいれん発作の改善**

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに使用することが重要です。

## 【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にルピアール坐剤に含まれる成分またはバルビツール酸系化合物（バルビツール酸誘導体）で過敏症のあった人
- ・急性間欠性ポルフィリン症の人
- ・ポリコナゾール、イサブコナゾニウム硫酸塩、タダラフィル（肺高血圧症に使用する場合）、マシテンタン、チカグレロル、ドラビリン、アルテメテル・ルメファントリン、ダルナビル・コビシスタット、リルピビリン、ミフェプリストン・ミソプロストール、ニルマトレルビル・リトナビル、リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン、ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド、ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド、エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド、ソホスブビル・ベルパタスビル、ドルテグラビル・リルピビリン、カボテグラビルを使用している人
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・虚弱な人、または呼吸機能の低下している人
- ・頭部外傷後遺症や進行した動脈硬化症の人
- ・心臓に障害のある人
- ・アルコール中毒のある人
- ・薬物依存の傾向のある人または過去に薬物依存の傾向のあった人
- ・重篤な神経症の人
- ・甲状腺機能低下症の人
- ・腎臓に障害がある人
- ・肝臓に障害がある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用してはいけない薬 [ポリコナゾール（ブイフェンド）、イサブコ

ナゾニウム硫酸塩（クレセンバ）、タダラフィル（肺高血圧症に使用する場合：アドシルカ）、マシテンタン（オプスミット）、チカグレロル（ブリリント）、ドラビリン（ピフェルトロ）、アルテメテル・ルメファントリン（リアメット配合錠）、ダルナビル・コビシスタット（プレジコビックス配合錠）、リルピビリン（エジュラント）、ミフェプリストン・ミソプロストール（メフィーゴ）、ニルマトレルビル・リトナビル（パキロビッド）、リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン（オデフシィ配合錠）、ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド（ビクタルビ配合錠）、ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド（シムツーザ配合錠）、エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド（ゲンボイヤ配合錠）、ソホスブビル・ベルパタスビル（エプクルーサ配合錠）、ドルテグラビル・リルピビリン（ジャルカ配合錠）、カボテグラビル（ボカブリア）] や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

## 【この薬の使い方は？】

### ●使用量および回数

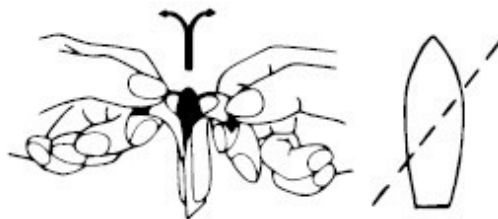
使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、小児の使用量および回数は、次のとおりです。

1日に体重1kgあたり4～7mgを使用します。

### ●どのように使用するか？

- ・この薬は肛門（こうもん）に入れる坐薬（ざやく）と呼ばれる種類の薬剤です。口から飲まないでください。
- ・この薬を使用する前は、できるだけ排便をすませておいてください。
- ・この薬を取り出すには、まず1個分の容器を切り離し、図のように上端の合わせ目から引き裂いて、坐剤を取り出します。なお、1/2個用いる場合には、図のように坐剤を斜めに切断します。



### ●使用し忘れた場合の対応

決して2回分を一度に使用しないでください。

### ●多く使用した時（過量使用時）の対応

- ・眠気、眼振、運動失調（手足の動きがぎこちない、言葉がききとりづらい、ふらつき、まっすぐ歩けない）が起こり、重い中毒では昏睡状態になります。呼吸が抑制され、脈拍は弱く、皮膚には冷汗があり、体温は下降します。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、使用を中止し、ただちに受診してください。

## 【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

### 〔熱性けいれんおよびてんかんのけいれん発作の改善の場合〕

- ・この薬を続けて使用している場合に、急に薬を減量したり使用をやめたりすると、てんかん発作をくりかえし、なかなか回復しない状態（てんかん重積状態）があらわれることがあります。使用をやめる場合は、徐々に減量されます。特に高齢の人や虚弱の人が使用する場合には注意が必要です。自分の判断で薬を減量したり使用をやめたりせず、医師の指示通りに使用してください。

### 〔この薬を使用される全ての方に共通〕

- ・この薬の使用中は定期的に肝機能や腎機能の検査、血液検査が行われることがあります。
- ・この薬の使用を続けていると、ある薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来ない、手足のふるえ、発汗、幻覚、不眠など、薬物依存の症状があらわれることがあるので、てんかんの治療に使用する場合以外は、長期間の使用は避けることとされています。このような症状があらわれたら、医師に連絡してください。また、この薬の量を急激に減らしたり、中止したりすることで、脱力感、いらいら感、頭痛、吐き気、嘔吐、不眠、幻覚、幻聴（幻声）、けいれん発作などの離脱症状があらわれることがあるので、この薬を中止する場合には、徐々に減量されます。この薬を使う量や使う期間については医師の指示に従ってください。
- ・眠気、注意力・集中力・反射運動能力などの低下がおこることがあるので、使用中は十分注意してください。
- ・アルコール飲料、セイヨウオトギリソウを含有する食品はこの薬に影響しますので、控えてください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人はこの薬を使用することはできません。
- ・授乳を避けてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

## 副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、直ちに医師または薬剤師に相談してください。




重大な副作用	主な自覚症状
中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis : TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゅうかいしょう (トキシック・エピダーマル・ネクロリシス：テン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群 (Stevens—Johnson 症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん (スティーブンス・ジョンソンしょうこうぐん)	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
紅皮症 (剥脱性皮膚炎) こうひしょう (はくだつせいひふえん)	ほぼ全身の皮膚が発赤する、発熱をしばしば伴う、しばしばフケのようなものがはがれ落ちる
過敏症症候群 かびんしょうしょうこうぐん	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節 (首、わきの下、股の付け根など) のはれ
依存性 いぞんせい	ある薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来ない、手足のふるえ、発汗、幻覚、不眠
顆粒球減少 かりゅうきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
呼吸抑制 こきゅうよくせい	呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。

これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	体がだるい、疲れやすい、力が入らない、発熱、突然の高熱、寒気、発汗、出血が止まりにくい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ、発熱をしばしば伴う
頭部	しばしばフケのようなものがはがれ落ちる、ある薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来ない、不眠、幻覚
顔面	鼻血
眼	目の充血やただれ
口や喉	唇や口内のただれ、喉の痛み、吐き気、歯ぐきからの出血
胸部	呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる
腹部	食欲不振
手・足	手足のふるえ
皮膚	全身性の発疹、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、あおあざができる、皮膚が広い範囲で赤くなる、ほぼ全身の皮膚が発赤する

## 【この薬の形は？】

販売名	ルピアール 坐剤 25	ルピアール 坐剤 50	ルピアール 坐剤 100
形状	 紡錘形の 坐剤（坐剤）	 紡錘形の 坐剤（坐剤）	 紡錘形の 坐剤（坐剤）
重さ	750mg	1200mg	1500mg
長さ	21.8mm	24.7mm	26.6mm
最大径	7.7mm	9.3mm	10.1mm
色	白色		

## 【この薬に含まれているのは？】

販売名	ルピアール 坐剤 25	ルピアール 坐剤 50	ルピアール 坐剤 100
有効成分	フェノバルビタールナトリウム		
添加剤	ハードファット		

## 【その他】

### ●この薬の保管方法は？

- ・冷蔵庫などの涼しいところ（1～15℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

### ●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

## 【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：久光製薬株式会社 (<https://www.hisamitsu.co.jp/>)

お客様相談室

TEL. 0120-133250

受付時間／9：00－17：50（土日・祝日・会社休日を除く）